



敵討嫁威谷傳

敵討
嫁威谷傳
全卷十冊
九十三三

遠 18
1297
/



13
1277
卷 1-10

福多各德以敬仁人
西長

融討嫁威谷傳序



明治三十九年一月二九日
水谷弓彦氏寄贈

莫上此世小以忠義至孝仁有代
乞報壽運之甲乙南陽忠危
疑加山之國終小子此沉倫付
來棄之地球之末一雙仇を
以之しひ之古を厭ハ一後来を
励中身其盛切難ひ以てたる感

魂しそ愚筆紙投也

干時元禄三曆

中夏下旬

歌討塚威台傳 卷之一



目錄

一春城曲膳士官と序む事

并松坂藩と金津抱事

敵討塚威名傳 卷之一

春増曲居仕宿の原じ事

并松坂藩より金津(抱)事

安子山彦乃の籠居新後(圓)田の大字に
報後(将)源忠輝とより(東)照神若れ九男
あしく(六)指(石)を(原)一(つ)ひ(中)威(を)き(か)れ(女)
が(出)氏(元)井(遠)江(ら)が(備)恵(子)依(と)元(和)二(子)

伊予の人も好しき人多く伊予の人も好しき人多く
遺の武術中筆流のすなはち隠れしやかく
を身にいつくことあることありしは
如く伊予の人も好しき人多く伊予の人も好しき人多く
四女のみえをいふ指するもて家々の心を
ゆふかふの互をいふゆふかふの互をいふ
得たの人も好しき人多く伊予の人も好しき人多く
一、是の伊予の人も好しき人多く伊予の人も好しき人多く

一、是の伊予の人も好しき人多く伊予の人も好しき人多く
この伊予の人も好しき人多く伊予の人も好しき人多く
そなたの人も好しき人多く伊予の人も好しき人多く
いふもは伊予の人も好しき人多く伊予の人も好しき人多く
うき流の人も好しき人多く伊予の人も好しき人多く
何れも伊予の人も好しき人多く伊予の人も好しき人多く
伊予の人も好しき人多く伊予の人も好しき人多く
さ下さき物格ありて日毎定むる伊予の人も好しき人多く

の事よりハ彼等の術者古来よりし
るハ他家を能く居今何きも
術一専らしく大縁と云ハ他流ハ是代
ハ其切の業志を以テ一藩士の忠義を
肩よりハ君くきまははに居り云候也と
漢くもこの威状を以て四月をとお
初り申す事ぬのわざり他家への外業
おめるとけり其成をふるもて振さうく

威状の向く事迎のおそりと相見ハあられ一
家中不和の事と典膳を以て深く
立さハ先か知るるをさきも初中位て此か
増の事ハ此は居るべき事なハ此後社
勿論世とよりよおらる交り又家来と
く忠誠を以て一人の忠義を以て此後
小者ふかいと大收付んと海にけ候は
忠と勤とまじく此等の事ハ此後と

作樂事と對面を以て對面と稱し一室に
るの事はもと大なる事なり一室に
居る事も亦存すると思ふに成りぬれば
其後を發せしむるに送らぬれば作樂事
に於て夫代あつて万事多角なりが
事細く述べて置んとあしむるに
しる事細く述べて置んとあしむるに
るの事はもと大なる事なり一室に

おのれ蒲生屋に居る事大なる事なり
るの事はもと大なる事なり一室に
表裏とけて得る事大なる事なり
出入りとして送らぬれば作樂事
下向する事大なる事なり一室に
居る事も亦存すると思ふに成りぬれば
其後を發せしむるに送らぬれば作樂事
に於て夫代あつて万事多角なりが
事細く述べて置んとあしむるに

佐世美の日向く四糸の糸ある中野の典孫
と云ふものよ中糸流と云ふものよ
より新事佐世美の事公初行と云し
と云ふものよ中野の典孫の目録と
初也ヤるの事典孫新比石柱掛抄
下一軍まし廣万格子格付と云ふ
子初行まじと一紙を渡し典孫ハ
くんと裁き一が佐世美の事と云ふ
と云ふものよ中野の典孫の目録と
初也ヤるの事典孫新比石柱掛抄
下一軍まし廣万格子格付と云ふ
子初行まじと一紙を渡し典孫ハ
くんと裁き一が佐世美の事と云ふ

と云ふものよ中野の典孫の目録と
初也ヤるの事典孫新比石柱掛抄
下一軍まし廣万格子格付と云ふ
子初行まじと一紙を渡し典孫ハ
くんと裁き一が佐世美の事と云ふ
と云ふものよ中野の典孫の目録と
初也ヤるの事典孫新比石柱掛抄
下一軍まし廣万格子格付と云ふ
子初行まじと一紙を渡し典孫ハ
くんと裁き一が佐世美の事と云ふ
と云ふものよ中野の典孫の目録と
初也ヤるの事典孫新比石柱掛抄
下一軍まし廣万格子格付と云ふ
子初行まじと一紙を渡し典孫ハ
くんと裁き一が佐世美の事と云ふ

以五枚突の汲人より長生を述しむるのみ
今心結取らむと曰くそお後を典結のつと
しそ心洗とておのひまはた四月名(お母)一
ひのまの今更とてさるる先任居とて
相報の對面一書とてさるるお母とて法居
以る依也等とて然とておのひまはた四月名(お母)一
汲一書とてさるるおのひまはた四月名(お母)一

龍討塚威の巻一紙

